

コロナ禍後4度目の「ハロウィーン」 行事参加予定者は16.7%で前年実績を2.5ポイント上回る 「感染拡大危惧」が大幅減少し、「外食」「飲酒」等を楽しむ機運

2023年「ハロウィーン」への参加意向・賛否の理由等を調査（2023年9月実施）

株式会社リクルート（本社：東京都千代田区、代表取締役社長：北村 吉弘、以下リクルート）の外食市場に関する調査・研究機関『ホットペッパーグルメ外食総研』（<https://www.hotpepper.jp/ggs/>）は、「ハロウィーン」への参加意向、賛否等に関する意識についてのアンケートを実施しましたので、その結果を発表いたします。

<要約>

POINT1 今年の「ハロウィーン」行事参加予定者は16.7%、前年参加実績を2.5ポイント上回る

・・・P3-4

▶2023年の「ハロウィーン」行事参加予定者は3圏域計で16.7%。前年の参加実績14.2%と比べると2.5ポイント上回った。行事への参加が活発化する可能性があるようだ。

POINT2 「ハロウィーン」の過ごし方、「外食」「飲酒」を楽しみたいムードに盛り上がり・・・P4-6

▶「ハロウィーン」を一緒に過ごしたい相手、1位「友人・知人」8.4%で、コロナ禍後では初めて最多。2位「家族・親族（小学生以上18歳以下の子連れ）」8.2%、3位「夫婦二人で」7.5%。

▶「ハロウィーン」の過ごし方の希望、1位「家で過ごしたい」17.2%、2位「ハロウィーンスイーツを食べたい」10.9%、3位「飲酒を楽しみたい」8.6%、4位「会話を楽しみたい」7.6%、5位「外食を楽しみたい」7.5%。「外食を楽しみたい」は、前年の「手作りの料理を食べたい」に代わってトップ5入り。

▶新型コロナウイルスの感染拡大がひと段落したことを受けて選んだものは、1位「家で過ごしたい」10.8%、2位「外食を楽しみたい」10.6%、3位「飲酒を楽しみたい」7.8%。

POINT3 「ハロウィーン」に肯定的な理由、20・30代男性「出会いの場」に期待も女性とはギャップ。

「ハロウィーン」に否定的な理由、「感染拡大危惧」は2年連続で大幅減少

・・・P7-8

▶「ハロウィーン」に肯定的な理由、1位「本来の意味と違って日本風を楽しめば良い」34.1%、2位「子どものためのお祭りとして良い」29.6%、3位「経済効果がある」27.7%。20・30代男性は「男女の出会いの場として良い」の回答割合が他の性年代に比べ高いが、同年代の女性とはギャップがある。

▶「ハロウィーン」に否定的な理由、1位「自分には関係がないように思う」49.8%、2位「何かと理由をつけて騒ぐのは良くない」34.8%、3位「本来の意味や趣旨を理解すべきだ」26.1%。前年3位の「新型コロナウイルス感染症の感染拡大につながりそう」は約15ポイント回答割合が減少し、6位に急落。

本件に関する
お問い合わせ先

<https://www.recruit.co.jp/support/form/>

調査概要と回答者プロフィール

- ◎調査名 外食市場調査（2023年8月度）
- ◎調査方法 インターネットによる調査
首都圏、関西圏、東海圏における、夕方以降の外食および中食のマーケット規模を把握することを目的に実施した調査（外食市場調査）の中で、ハロウィーンに関連した飲食・パーティー・イベントの参加状況や参加意向、今年のハロウィーンは誰とどのように過ごしたいか、新型コロナウイルスの感染がひと段落した影響、ハロウィーンに対する考え方などを聴取。
- ◎調査対象 首都圏（東京都、神奈川県、埼玉県、千葉県、茨城県）、関西圏（大阪府、京都府、兵庫県、奈良県、滋賀県）、東海圏（愛知県、岐阜県、三重県）に住む20～69歳の男女（株式会社マクロミルの登録モニター）

■事前調査

- ①調査目的 本調査の協力者を募集するために実施
- ②調査時期 2023年7月14日（金）～2023年8月2日（水）
- ③調査対象 首都圏、関西圏、東海圏に住む20～69歳の男女（株式会社マクロミルの登録モニター）
- ④調査内容 本調査への協力意向、普段の外食頻度、普段の中食頻度
- ⑤配信数 503,643 件
- ⑥回収数 31,519 件
- ⑦本調査対象者数 13,177 件

- ◆本調査対象者の割付について
 - ・本調査では、回答者の偏りをできるだけなくすために、割付を行って回収した。
 - ・性年代別10区分×地域別25区分（首都圏地域13区分、関西圏地域8区分、東海圏地域4区分）＝250セルについて、令和3年人口推計（総務省）に基づき割付を行った。
 - ・本調査の目標回収数は、首都圏4,000s、関西圏2,000s、東海圏2,000s、合計8,000sとした。

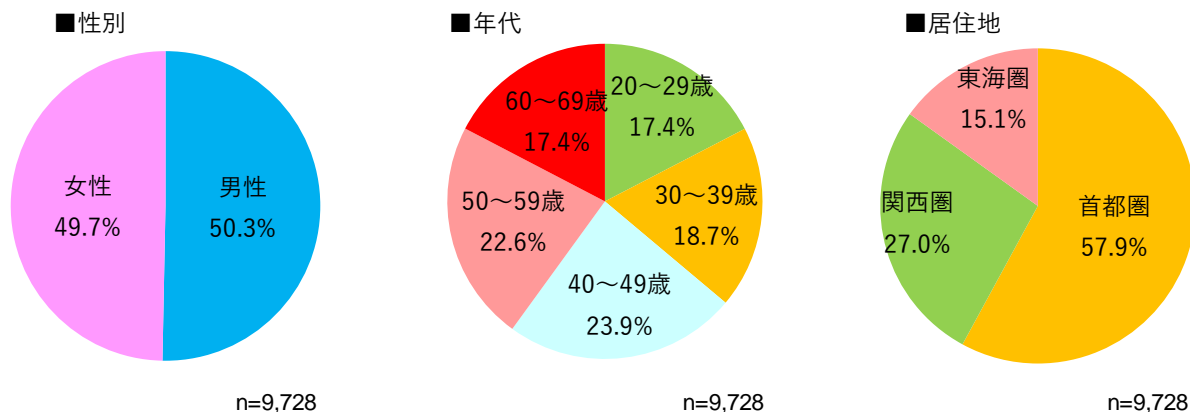
■本調査

- ①調査方法 事前調査で本調査への協力意向が得られたモニターの中から、脱落率を加味して設定した必要数をランダムに抽出し、本調査の案内メールを通知。
- ②調査期間 2023年9月1日（金）～2023年9月11日（月）
- ③配信数 12,556 件
- ④回収数 9,813 件 （回収率 78.2 %）
- ⑤有効回答数 9,728 件 （首都圏 4,950 件、関西圏 2,564 件、東海圏 2,214 件）

※回収された票のうち、自由回答コメントから、趣旨に合わないと思われる票を無効としたほか、事前調査時の普段の外食・中食頻度の回答と、本調査時の1カ月間の外食・中食回数が著しく乖離している場合、事前調査時の住所と、本調査時の住所が、圏域を越えて変わっている場合を無効とした。

- ◆集計方法について
 - ・本調査結果は、令和3年人口推計（総務省）における割付（性年代別10区分×地域別25区分＝250セル）別の構成比に合わせてサンプル数を補正したウェイトバック集計を行っている。
 - ・補正後のサンプル数は次の通り。
3圏域・計 9,728 件（首都圏 5,636 件、関西圏 2,624 件、東海圏 1,468 件）

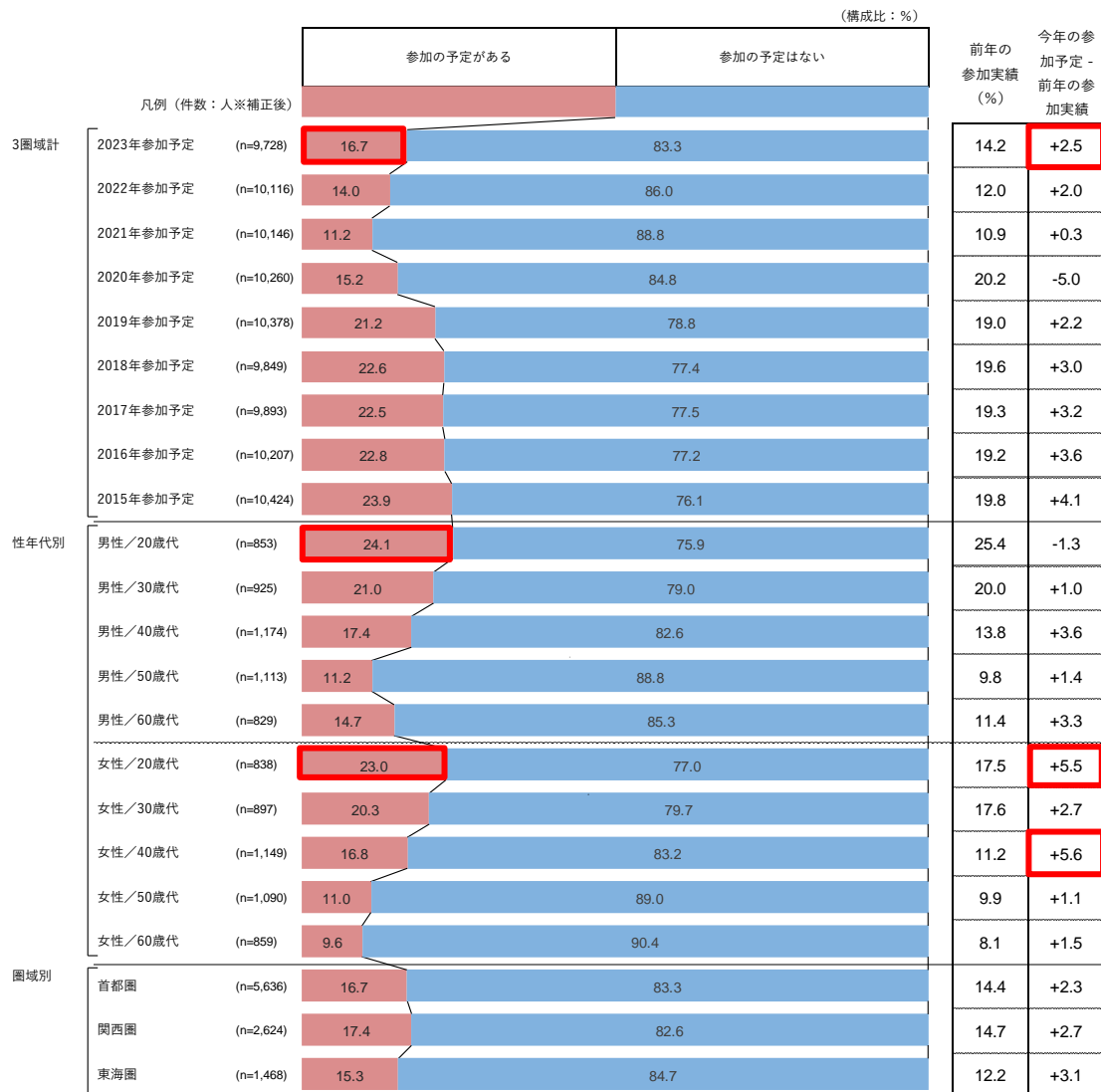
◆回答者プロフィール（ウェイトバック後）



1. 2023年「ハロウィーン」行事参加予定者は16.7%、前年参加実績を2.5ポイント上回る

今年も賛否両論のある「ハロウィーン」の季節がやってくる。2023年の行事参加予定については3圏域計で16.7%と、前年の参加実績14.2%（2023年に調査）と比べると2.5ポイント上回る結果となっている。新型コロナウイルスの影響が薄れ、行事への参加が活発化する可能性がありそうだ。参加予定率が最も高かったのは男女とも20代で、20代男性では24.1%、20代女性では23.0%が参加予定と回答している。前年の参加実績と比べると、20・40代女性で前年実績を5ポイント以上上回る参加予定となっている。

ハロウィーンに関連した飲食、パーティー、イベントについて、今年の参加予定（全体／単一回答）



※「参加予定」の各データは、当年度調査で聴取した、当年度の「参加したい割合」を示す。

※「前年の参加実績」の各データは、当年度調査で聴取した、前年度の参加実績を示す。

※「今年の参加予定 - 前年の参加実績」の各データは、当年度調査で聴取した、「当年度の『参加したい』割合」 - 「前年度の参加実績」で算出。

※「参加の予定がある」：『今年参加したいハロウィーンに関連した飲食、パーティー、イベント』の「自分が企画・呼びかけしようと思っているもの」「企画はしないが参加しようと思っているもの」で、いずれかの飲食、パーティー、イベントに「参加したい」と回答した人を集計

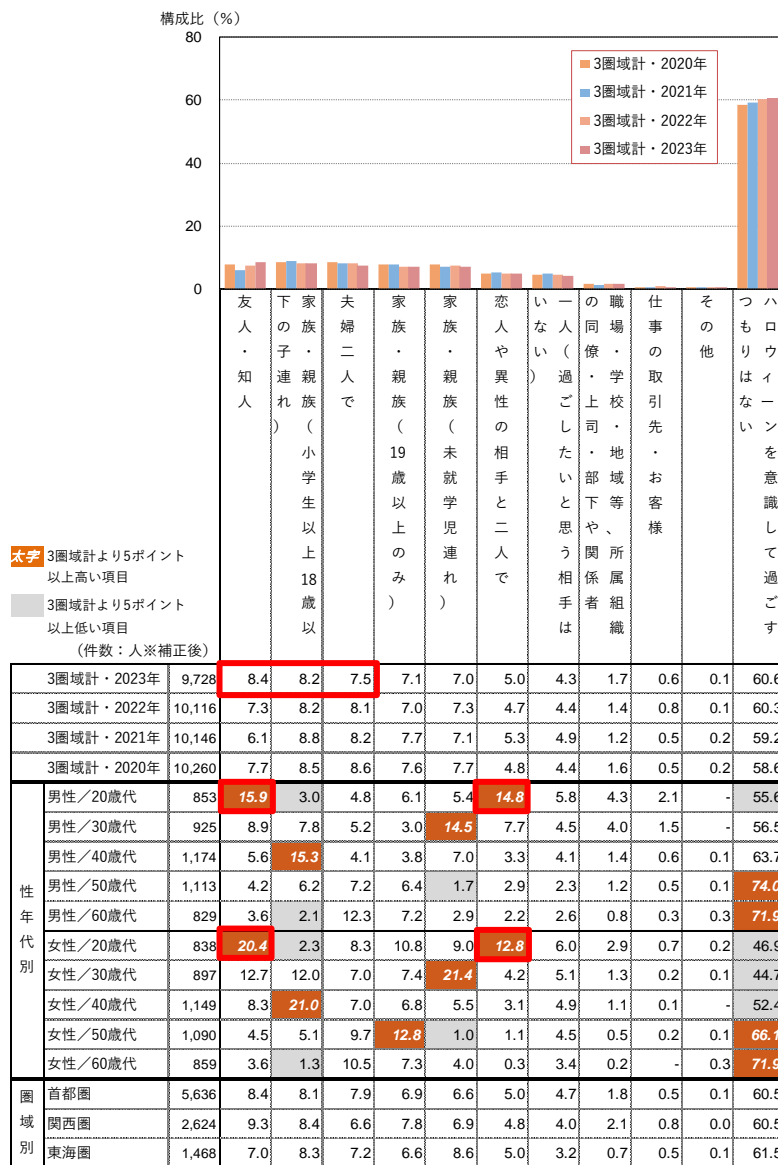
※「参加の予定はない」：『今年参加したいハロウィーンに関連した飲食、パーティー、イベント』の「自分が企画・呼びかけしようと思っているもの」「企画はしないが参加しようと思っているもの」とともに「参加

の予定はない」と回答した人を集計

2. 2023年の「ハロウィーン」を一緒に過ごしたい相手は「友人・知人」が最多に

2023年の「ハロウィーン」を誰と過ごしたいか聞いた。「ハロウィーンを意識して過ごすつもりはない」以外は僅差だが、1位は「友人・知人」で8.4%と、コロナ禍後では初めて最多となった。「友人・知人」は、2021年の5位から、2022年は3位、今年は1位と年々順位を上げてきており、家族中心の集まりであったコロナ禍中のハロウィーンから徐々に変化してきたことがうかがえる。2位は「家族・親族（小学生以上18歳以下の子連れ）」で8.2%、3位は「夫婦二人で」が7.5%であった。性年代別では、20代の男女では、一緒に過ごしたい相手として「友人・知人」「恋人や異性の相手と二人で」が他の性年代よりも多い。

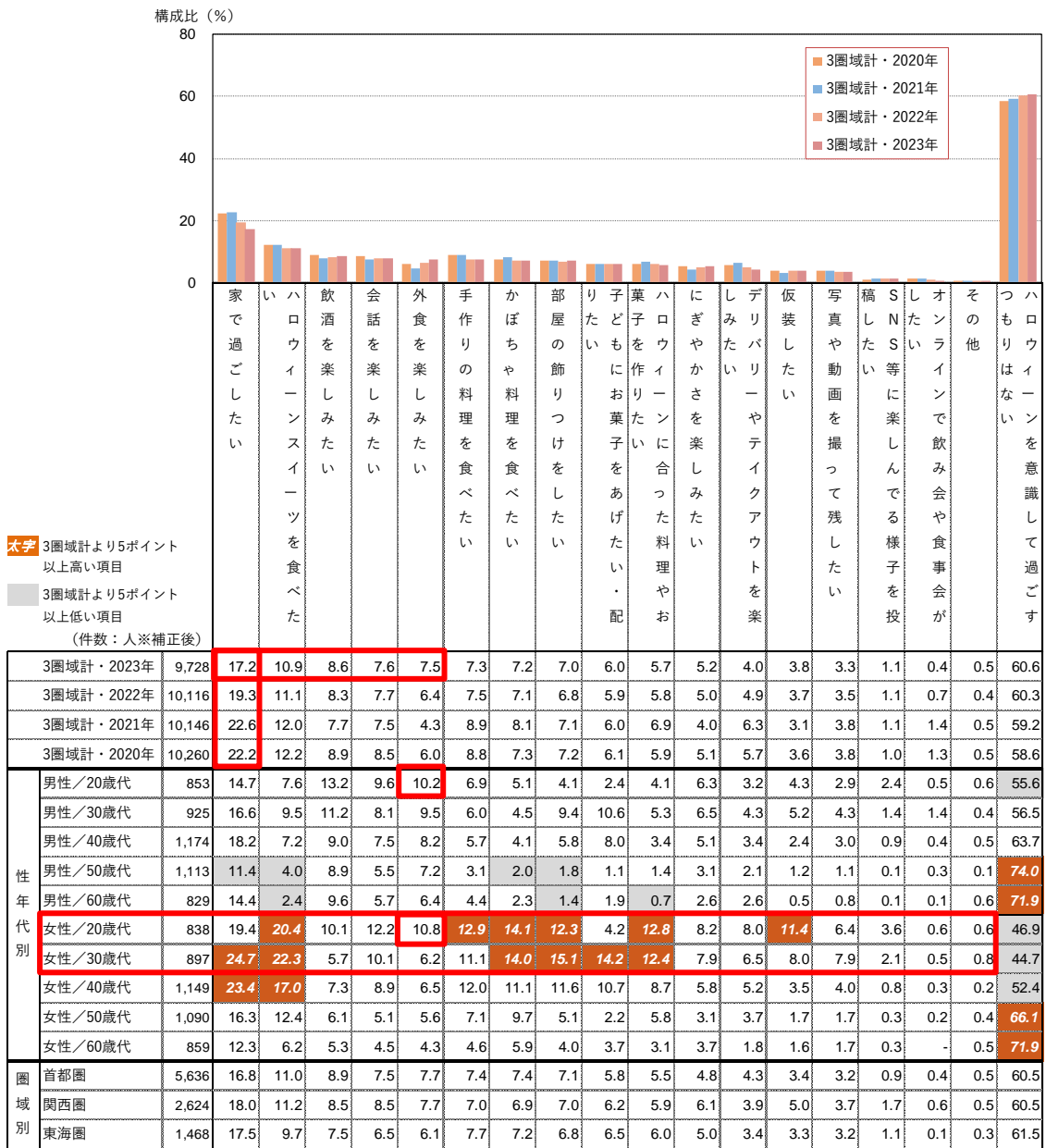
今年のハロウィーンは誰と過ごしたいか（全体／複数回答、2020年からの設問）



3. 2023年の「ハロウィーン」、過ごし方の希望で「外食」が「手作り料理」と代わってトップ5入り

2023年の「ハロウィーン」の過ごし方の希望を聞いた。「ハロウィーンを意識して過ごすつもりはない」以外でのトップ5は、1位は「家で過ごしたい」で17.2%、2位は「ハロウィーンスイーツを食べたい」で10.9%、3位は「飲酒を楽しみたい」で8.6%、4位は「会話を楽しみたい」で7.6%、5位は「外食を楽しみたい」が7.5%で、前年の「手作りの料理を食べたい」に代わってトップ5に入った。「家で過ごしたい」の回答割合は過去4年で一番低いことから、外出する人が増える可能性もありそうだ。性年代別では、他の性年代に比べ、20代男女で「外食を楽しみたい」の割合が高く、20・30代女性では例年通りさまざまな過ごし方への希望があるようだ。

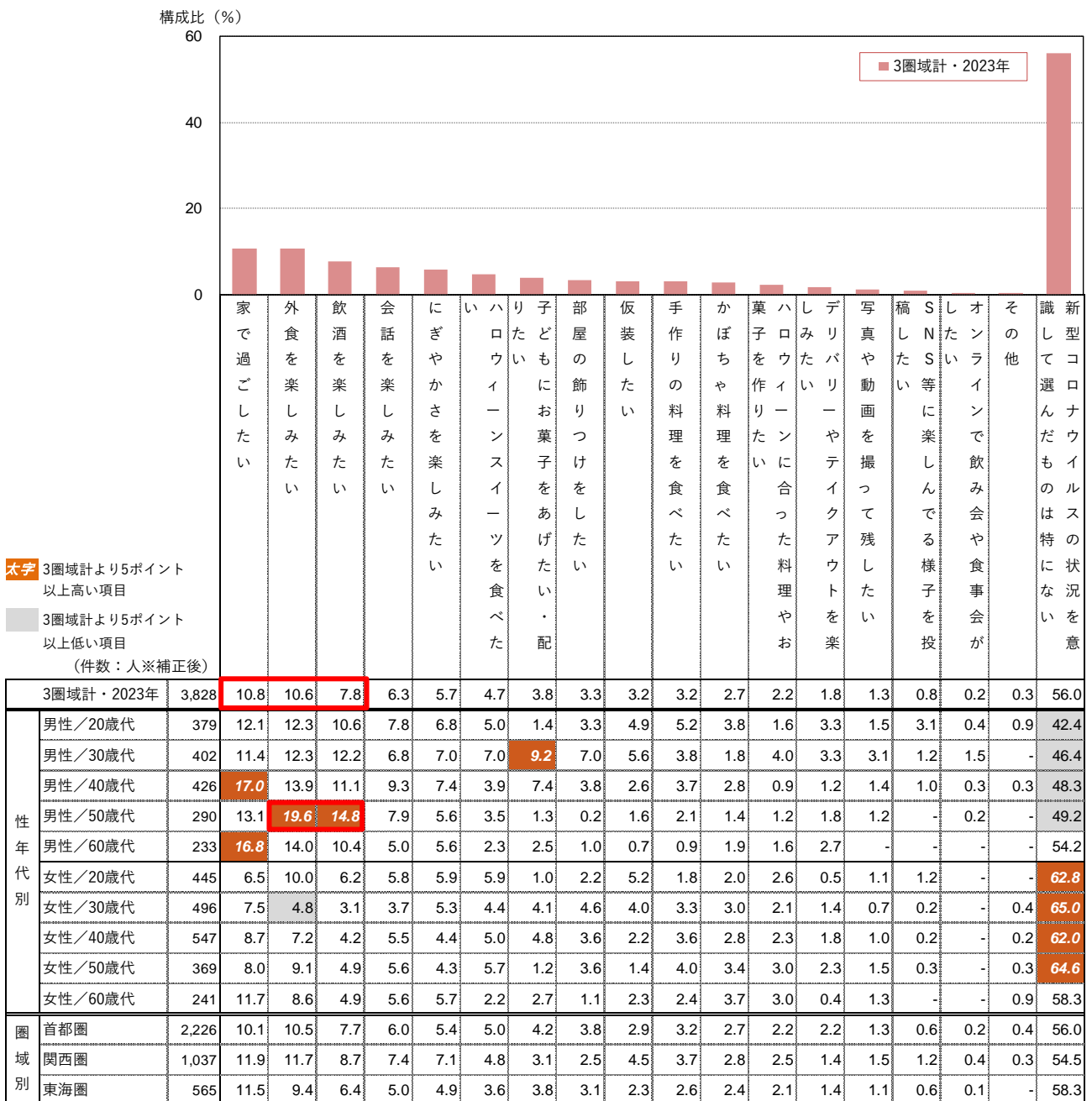
今年のハロウィーンはどのように過ごしたいか（全体／複数回答、2020年からの設問）



4. コロナ禍が落ち着き、50代男性等で「外食」「飲酒」を楽しみたいムードが盛り上がっている

前ページで希望する「ハロウィーン」の過ごし方があった人（3,828人）に、新型コロナウイルスの感染拡大がひと段落したことを受けて選んだものを聞いた。「特になし」以外でのトップ3は、1位は「家で過ごしたい」で10.8%、2位は「外食を楽しみたい」で10.6%、3位は「飲酒を楽しみたい」が7.8%。性年代別では、50代男性で「外食を楽しみたい」（19.6%）、「飲酒を楽しみたい」（14.8%）の回答割合が他の性年代に比べ顕著に高く、アフターコロナで自粛を解除して外食消費を押し上げる主役になる可能性があるそうだ。

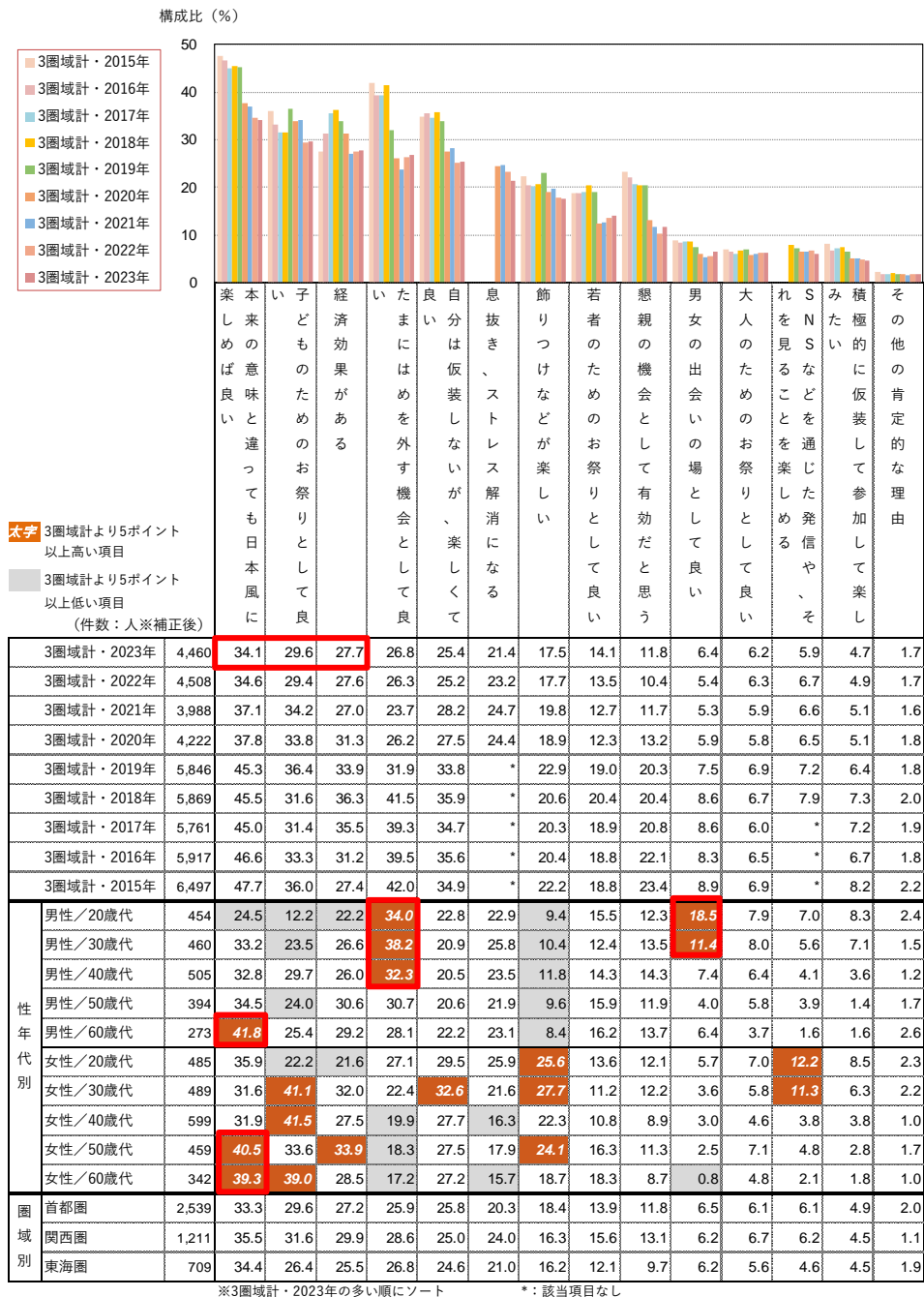
新型コロナウイルスの感染がひと段落したことを受けて選んだもの（「今年のハロウィーンはどのように過ごしたいか」のいずれかの回答者／複数回答）



5. 「ハロウィーン」に肯定的な理由、20・30代男性「出会いの場」に期待も、女性とはギャップ

「ハロウィーン」に肯定的な人が答えたその理由は、1位は「本来の意味と違って日本風によければ良い」で34.1%、2位は「子どものための祭りとして良い」で29.6%、3位は「経済効果がある」で27.7%と前年と順位が同じであった。性年代別では、他の性年代に比べ男女60代と女性の50代で「本来の意味と違って日本風によければ良い」が高く、20~40代男性で「たまにはめを外す機会として良い」の回答割合が高かった。また、20・30代男性は「男女の出会いの場として良い」の回答割合が他の性年代に比べ高いが、同年代の女性は、必ずしもそうは思っていないようだ。

「ハロウィーンについての考え」肯定的な理由（肯定的な理由のいずれかに回答した人／複数回答）

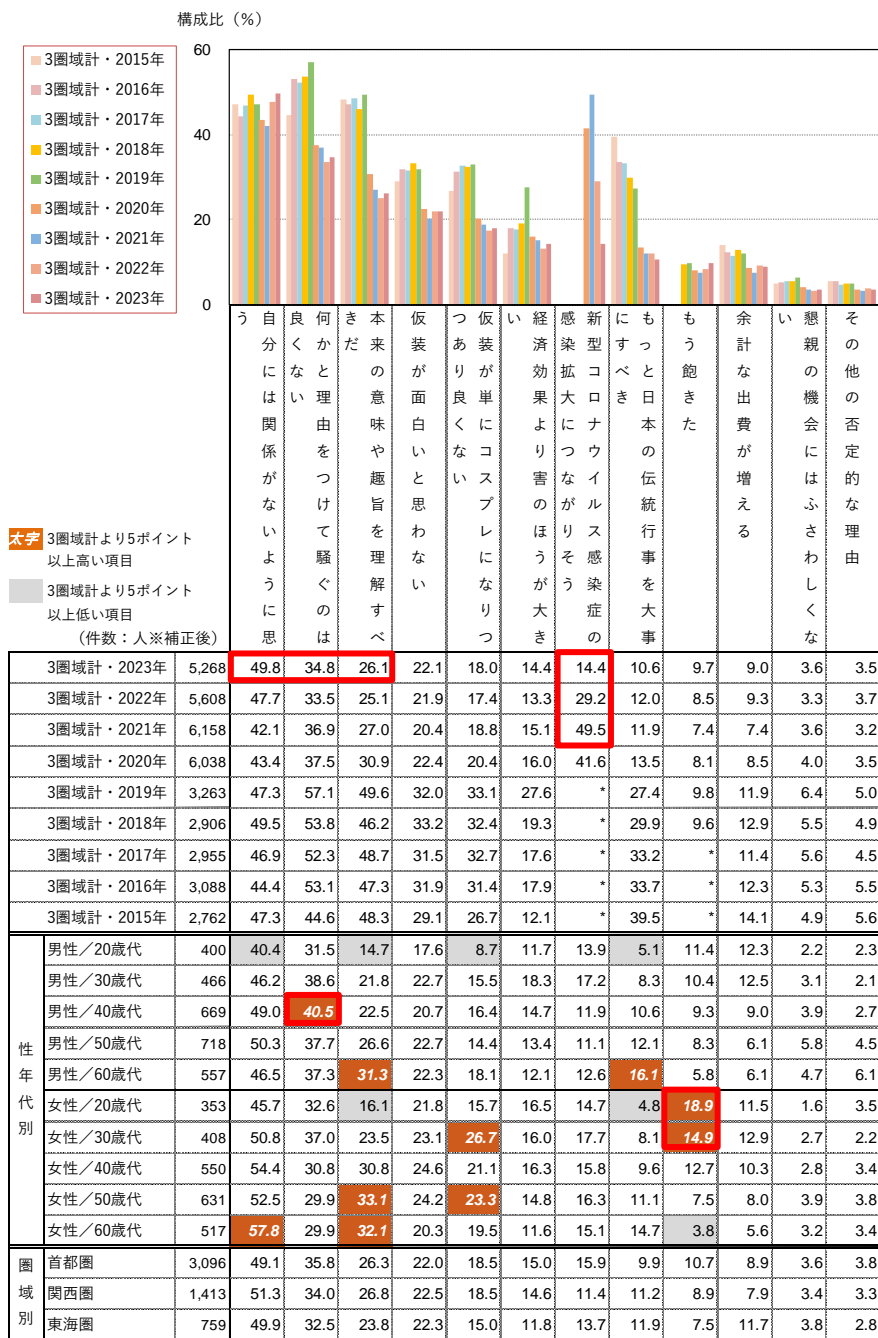


※2020年以降は設問構成を変更しているため、経年比較は注意が必要

6. 「ハロウィーン」に否定的な理由、「感染拡大危惧」は約15ポイント減少して6位に急落

「ハロウィーン」に否定的な人が答えたその理由は、1位は「自分には関係がないように思う」で49.8%、2位は「何かと理由をつけて騒ぐのは良くない」で34.8%、3位は「本来の意味や趣旨を理解すべきだ」が26.1%。前年3位の「新型コロナウイルス感染症の感染拡大につながりそう」（前年29.2%）は約15ポイント回答割合が減少し順位は6位（タイ）に急落。性年代別では、他の性年代に比べ40代男性で「何かと理由をつけて騒ぐのは良くない」の回答割合が高く、20・30代女性では「もう飽きた」の回答割合が高かった。

「ハロウィーンについての考え」否定的な理由（否定的な理由のいずれかに回答した人／複数回答）



※2020年以降は設問構成を変更しているため、経年比較は注意が必要

リクルートグループについて

1960年の創業以来、リクルートグループは、就職・結婚・進学・住宅・自動車・旅行・飲食・美容などの領域において、一人ひとりのライフスタイルに応じたより最適な選択肢を提供してきました。現在、HRテクノロジー、マッチング&ソリューション、人材派遣の3事業を軸に、60を超える国・地域で事業を展開しています。リクルートグループは、新しい価値の創造を通じ、社会からの期待に応え、一人ひとりが輝く豊かな世界の実現に向けて、より多くの『まだ、ここにはない、出会い。』を提供していきます。

詳しくはこちらをご覧ください。

リクルートグループ：<https://recruit-holdings.com/ja/> リクルート：<https://www.recruit.co.jp/>